

久賀出身の彫刻家とその作品

周防大島町文化財保護審議会委員 西本 芳隆

久賀には著名な彫刻家が3人いる。

佐川定慶（明治40年～平成13年 本名 藤川健一…後に佐川家の跡取りとなる）

宗光の宮大工藤川勇太郎の次男として生まれ、門井耕雲の一番弟子となる。昭和38年大阪市四天王寺の十一面観音立像を始めとして近畿地方を中心に仏像制作や修復を手掛ける。生涯を通して30組以上の仁王像を修復し、四国八十八ヶ所の仏像修復にも携わった。阿弥陀寺の回向祭の二十五菩薩練り供養に用いる菩薩面も彼の作である。なお、宮本常一記念館には、彼の寄贈品として十一面観音と三面大黒天が展示されている。

林健（明治41年～平成14年）

宗光の商家の次男として生まれ、定慶とは一歳違い、生家も近かった。大正14年太平

洋美術研究所へ入所し、門井耕雲の大観音像制作に参加、その後帝展審査員・長谷川栄作に師事した。昭和7年帝展に『澄韻』で初入選し、以後多くの入選を果たす。戦後は呉市や広島市を拠点に活動した。呉市の『平清盛公日招像』やいくつもの裸婦像など、広島県内に数多くの代表作を遺した。久賀庁舎前の『青空』も彼の作である。

中村青田（大正元年～昭和56年 本名 中村梅一）

古町の大工中村鶴蔵の五男として生まれ、6歳のとき、久賀の覚法寺で山門彫刻を制作していた門井耕雲と出会ったのがきっかけで彫刻家の道を志し、16歳で耕雲に入門。その後、日展等で一時代を築いた澤田政廣に師事し、昭和14年『浴光』で新文展に初入選した。戦後は、岡山、東京を中心に活動し、昭和37年

『浴』で日展特選に選ばれ、その後日展審査員も務め、後進の指導にも尽くした。覚法寺の幕末期に活躍した住職大洲鉄然の木彫坐像、瀬戸公園に建つ大島大橋建設に貢献された佐藤栄作元内閣総理大臣と橋本正之元山口県知事のブロンズ像も彼の作である。

3人は、西方出身の仏像彫刻家門井耕雲との縁が深く、戦争による制作活動の中断を余儀なくされるなどの共通点もあったが、彫刻への情熱とともに郷土への思いを生涯持ち続けてくれた。

【参考文献】

犬伏武彦ほか「長州大工が遺した社寺建築」、周防大島町文化振興会編「京仏師佐川定慶」、同編「彫刻家林健」の川口智氏の論考



▶八幡生涯学習のむらに保管されている平清盛公日招像の原型

柳井警察署だより

☎ 0820 (72) 0110
☎ 0820 (23) 0110

高齢者の交通事故防止県民運動

昨年、県内で交通事故により亡くなられた高齢者の方は21人で、交通事故死者数全体の68%を占めており、中でも、高齢歩行者の方が被害に遭う事故が多く発生しています。

歩行者の方は、道路を横断するとき、近くに横断歩道がある場合は必ず横断歩道を利用するとともに、ハンドサインで横断する意思をドライバーにアピールし、安全確認を確実にしてから横断しましょう。

また、高齢ドライバーの方は、加齢に伴い運転操作に必要な身体機能が低下することを意識し、周囲の安全確認や道路状況をよく確認して運転するとともに、運転操作を間違えないために、ゆとりを持って行動しましょう。

【運動の重点】

- 高齢歩行者の交通事故防止
- 高齢運転者の交通事故防止
- 高齢者の自転車安全利用の推進
- 反射材・ハイビームの活用促進

